

平成22年12月4日（土）実施 大刀洗町事業仕分け

1 事業名及び担当課

事業番号	事業名	担当課
2-3	ちくご子どもキャンパス事業	生涯学習課

2 仕分け結果 ( ) は、仕分け人の判定結果

不要	民間	国・県・広域	町（要改善）	町（現状維持）	結果
5 (3)	1	0	3 (1)	0	不 要

3 仕分け人及び判定人コメント

(仕分け人コメント)

- ・「お付き合い」事業は意味なし→参加者は極めて少なく波及効果は見込まれず、補助金以上の負担金を支払っている。まったく役に立っていない。そもそも学校現場で行われている農業体験や食育を充実することの方が大事。
- ・参加者の減少、1年で15名程度の参加者では、「地域全体を学びの場」という目的達成にはほど遠い。評議会の事業として行った結果、やや反省に続けていたきらいがある。  
事業は、一旦廃止して、子どもたちの農業体験、食の重要性を見つめなおす独自の取組を新たに検討すべき。

(判定人コメント)

- ・子ども育成ではなく、町をPRという考え方である。町のPRであれば広域で実施育成と考え方であれば広域でプログラムを考える必要がある
- ・大刀洗町の他団体(青少年育成会)等に移行。大刀洗町の独自の体験学習プログラムの考案。各年度ごとに変更することではなく数年、継続して実施する
- ・補助金より多い負担金を払ってやっても結果が出ず、もっと違う子どもたちが参加してよかったですように考えなおすこと(子どもたちの声を聞いて考えよ)
- ・他の自治体の方が魅力的な内容である。プログラムの考察・検証が不十分ではないか。今後、大刀洗町が単独でやる必要はない。今後継続するならば、他の自治体と合同で行ったり、持ち回りで行えば魅力的なプログラムに出来る。
- ・参加者が少ないのは、内容に問題がある。月2回のチャレンジ教室には多くの子どもが参加している。子どもたちの魅力ある内容だったら集まると思う。年2回ということで、力を入れていないのなら不要。
- ・大刀洗町単独の事業として、もっとPRして人数を増やし魅力ある事業にしたらどうか。  
最近、家庭菜園、貸し農園が流行なので農業をPRするには、いい時期だとおもうのでやり方を見直せば人は集まるのではないか。

4 今後の方針

青少年育成に対しては様々な事業が展開されており、今後は地域ボランティアやアンビシャス広場等に事業委託(合同開催)するか、筑後田園都市推進評議会圏域内の自治体が合同で行うプログラムを開発する必要がある。当町の単独事業としては行わない。